

第730航空機動中隊、特殊貨物輸送 *Special Cargo*

September 28, 2020

374th Airlift Wing Public Affairs

第730航空機動中隊は、エアゾル剤からトラック、機密文書や医療品に至るまで、自衛隊と密に連携し、多くの資産を運んでいる。8月、特殊貨物チームは、海上自衛隊が本土および海域での防衛能力を維持するイージス艦ミサイルを搬送する任務を開始した。

イージス駆逐艦は、敵が弾道ミサイルを展開する日本周辺の海域を哨戒する。有事への準備態勢を確保するため、海上自衛隊は近距離に迫る脅威を迎撃するための弾道ミサイル防衛システムを導入した。第730航空機動中隊と特殊貨物チームは海上自衛隊を支え、その準備を確実にする。

「第730航空機動中隊の任務は、迅速に地球規模の機動力を展開することだ。簡略に言えば、どこでどんな軍の運用が必要になろうと、我々は直ぐに実践できる。この任務で特殊なのは、取り扱う武器、弾薬、爆発物の種類だ。単に普通のみ사일ではない。我々に危害を与えるロケットを迎撃するのに欠かせないロケットだ」と、第730航空機動中隊特殊計画シフト監督官タイタス・フレイジャー技能軍曹は述べた。

こうした輸送任務は、めったに表立って称えられることはないが、多くの人々の生活を脅かす脅威を抑止するカギだ。

「自分の仕事が、日本の安全を守るための一端を担っていることを実感できる。我々の存在を知らない人に、これほどまでにインパクトのある変化をもたらしたと言えるのは、そうそうあることではない。こうしたことが行われていることはあまり知られていないが、我々は人々の安全を確保していることで、人々は安心して生活できる」と第730航空機動中隊特殊運用監督官マイケル・フレイタス軍曹は語った。

太平洋地域での任務では、地域の安定を確保するために多くの国との効率的なコミュニケーションを図ることが必要だ。そして、このコミュニケーションこそ、信頼の上に成り立っている。

「我々はパートナーを支援すると言うだけでなく、実践的にそれを示している。機材や能力を提供し、彼らを成功に導いている。今、我々が整備している態勢は、将来迫りうる脅威の抑止となりえるだろう」とフレイタス軍曹は加えた。

